

第三峡田小学校 記録②

荒川区立第三峡田小学校 小学校 6 年生・2 学期 社会科歴史「江戸の文化と新しい学問」
 授業者インタビュー・授業案・選書用キーワード

< 学習用ブックリスト作成手順 ステップ (1) >

図書館が授業支援を効果的に行うためには、図書館員は、授業者である教員の意図を把握し、理解する必要があります。前年度のプロジェクトを通して得られた“授業者への聞きどころ”項目に沿って、授業者インタビューを行いました。また、授業案に基づいて作成した選書用キーワードを、授業者、国際子ども図書館職員、学校図書館支援室、プロジェクト主査の 4 者で確認しました。

1. 授業者インタビュー

平成 23 年 7 月 28 日 (木) 16:00-17:30 第三峡田小学校図書館

【参加者】(敬省略)

川島徹 (荒川区立第三峡田小学校主任教諭 6 年生担任)
 藤田利江 (荒川区教育委員会 学校図書館支援室 主任学校図書館指導員)
 鎌田和宏 (帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科 准教授)
 橋詰秋子、高宮光江、田中千穂子 (国際子ども図書館児童サービス課)

	授業者 (川島先生) への聞きどころ
授 業 に つ い て	教科単元 ・ (川) 社会科 日本の歴史「江戸の文化と新しい学問」 資料を使った調べ学習は、当該単元のまとめとして行う。
	児童の調べの経験 ・ (川) 児童は、1 学期に、学校図書館支援室の藤田先生から、調べる方法を学ぶ授業 2 時間受けた (下記*参照)。藤田先生の授業で、児童皆、調べを完成できたので、調べることに少し自信を持った。もっとやりたいとの声もあった。その後、その授業で学んだことをいかして、理科で「からだ調べ」も行った。
	調べをすることで児童に期待すること ・ (川) 単元の学習内容を発展させ、自主的な探究につなげる。調べることに自信をつけて、調べる楽しさを知る。
	授業の日程 9 月第 4 週 授業時間数 7 時間 (うち、資料を使う時間数: 最後の 2 時間) ・ (川) 最後の 2 時間以外は、教科書に沿って講義形式の授業をする。本は、単元の始めから教室に置いておき、朝読や昼読の時間に自由に読めるようにしておきたい。 ・ (鎌) 調べ学習の前に行う講義の授業では、各授業の最後に「今の授業で印象に残った言葉を書きとめておいてごらん」と言って、児童にキーワードとなる言葉を書きとめさせておくと、調べ学習時のテーマ選択につながってよいだろう。
	授業をする場所 ・ (川) 調べ学習は学校図書館で行いたい。 ・ (鎌) 本は、机に表紙を見せて並べるとよい。複数のテーマを含む本は、該当箇所が付箋を貼っておくと、本の頁をめくるのに慣れていない児童にはよい。

	<p>調べのスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(川) 自分で調べるテーマを決めて、個人個人で調べる。自分でテーマを決めることで、児童に調べに対する責任感を持たせたい。調べる途中で、テーマを変えてもよいと思っている。 <p>調べた成果はどうするか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(川) 藤田先生の授業でやった方法 (下記*参照) と同じにしたい。調べたことや調べたことに対する感想をカードに記入し、そのカードを画用紙に貼ってまとめる。まとめた画用紙は、見せ合ったり掲示したりして、次の学習へとつなげていきたい。 <p>児童の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(川) クラスの人数は 26 人 (男 15 人、女 11 人)。社会は、最初苦手の児童が多かったが、興味を示すようになった児童もいる。児童の課題は資料の選び方。資料が多すぎると混乱する。(だから、インターネットは調べ学習では使わない。) なるべくポイントを絞って資料を利用させたい。辞書は引けるが、辞書を引いても調べに結びつかないことが多い。 <p>授業の中で本を使う意図：</p> <p style="text-align: center;"> [調べ学習の場合は、以下のどちらか ① 授業の一段階での調べ作業、②自由研究的な調べ学習] </p> <p>(川) やはり①。調べることで、授業の理解を深め、調べることの楽しさを学ばせたい。</p>
資料について	<p>必要な本の主題</p> <p>⇒選書用キーワード (下記 3 参照) として作成</p> <p>インターネットの使用可否： 否</p> <p>必要な本の量 (児童一人当たりの冊数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(川) あまり多くなくてよい。 ・(鎌) 児童には複数の情報源から選ばせたいので、キーワードに対する情報源が一つでは無理がある。資料数ではなくて、情報源数 (キーワードに関する情報が載っているページ) が、2、3あるのが望ましい。 <p>資料に載っていてほしい情報 (例：統計、写真)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(藤) 1 時間で読み取るためには、絵や写真が多いものが良い。岩波ジュニア新書などは、内容がよくても読む時間がない。児童の目を引くとつきやすい本、読みやすいやさしめの本 (見て直感的に内容が分かる本) がよい。『ポプラディア情報館』のようなものが基本だろう。 ・(藤) 学校図書館では、小学生新聞の切り抜き資料も作っている。今回の調べ学習に使える切り抜きもあるだろう。 <p>教科書と副読本</p> <p>教科書＝東京書籍、副読本＝光文書院『社会科資料集 6 年』</p> <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刊行年の新しさ：(川) 今回のテーマでは関係ない

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本・読物の扱い：(川) 読み物は、読む時間がない。 (鎌) 川端誠著の『落語絵本』は、江戸の風俗がわかるので良い。ぜひ入れて欲しい。 ・ 大人向け一般書を含めるか：(川) 絵や写真が多いものであれば、一般書でも構わない。 ただし、本の内容は、「そのままカード」(下記*参照)にそのまま書き写すので、高度な内容のものは必要ない。 ・ 複本の必要性：(川) 特に不要 <p>授業後の発展学習用資料の提供を希望するか (例：学校図書館でのコーナー展示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (川) 発展学習のための読み物を置くのは、とても良い。希望する。⇒当該単元の学習期間中、教室で本を展示することに。
資料以外	<p>児童用に情報源リストやパスファインダーの提供を希望するか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (藤) パスファインダーはこの授業には必要ないが、次の段階の調べ学習になれば有効だ。
<p style="text-align: center;">* 藤田利江先生の調べる方法を学ぶ授業 *</p> <p>①調べるテーマを文章化する。一つのキーワードからいくつか疑問を出す。⇒「太陽チャート」を使用する</p> <p>②資料を使って、疑問を調べる。</p> <p>③疑問に対する答えを書き写す (引用)。⇒「そのままカード」を使用する わからない事は、わからない言葉のまま書き写す。</p> <p>④いくつかのカードを、箇条書きで合体する ⇒「まとめカード」を使用する 自分の言葉で書く。イラストをつけてもよい。 (途中 二人一組で、調べていること・もっと調べたいことをインタビューしあってもよい)</p> <p>⑤調べたことに対する自分の考えを書く⇒「感想カード」を使用する</p> <p>⑥「まとめカード」と「感想カード」を1枚の画用紙に貼ってまとめる</p> <p>⑦発表。作品を掲示し、簡単に説明する。</p> <p>※「太陽チャート」「そのままカード」等を使った調べる方法については、以下も参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内田洋行教育総合研究所 「学びの場.com: 学校図書館を活用した調べる学習 ～どう情報を読み取りまとめるか、児童・教員共に学ぶ～東京都荒川区教育委員会 学校図書館支援室・藤田利江 主任学校図書館指導員」。 (オンライン) http://www.manabinoba.com/index.cfm/6,16813,14,html (最終アクセス 2011-12-01) ・ 「調べ学習を調べる 上」 毎日小学生新聞 2011年11月7日号 p.1-2 ・ 「調べ学習を調べる 中」 毎日小学生新聞 2011年11月8日号 p.1-2 ・ 「調べ学習を調べる 下」 毎日小学生新聞 2011年11月9日号 p.1-2 	

3. 授業案 (2011 年 7 月 28 日時点)

【単元】	日本の歴史
【小単元】	6. 江戸の文化と新しい学問
【調べ学習の位置付け】	小単元の学習のまとめとして、調べ学習を実施する。 調べ学習には、全 7 時間のうち 6 時間目と 7 時間目を当てる。
【調べ学習時の指導】	
①ねらい	「江戸の文化と新しい学問」の学習から興味を持ったテーマについて調べ、まとめる。
②学習の流れ	①学習のめあてを確認する。
	②各自で調べたいテーマを決め調べたいことを考える。「太陽チャート」を使う。
	③テーマに沿った資料をもとに「そのままカード」を書く。引用なので、「」をつける。出典も書く。
	④「そのままカード」をもとに「まとめカード」を書く。調べたことをまとめて書くようにする。
	⑤「感想カード」を書く。調べたことに関する感想を書く。
	⑥「まとめカード」と「感想カード」を一枚の用紙にまとめる。文字の大きさや色を工夫する。写真等の資料（ワーク）を切り貼りしてもよい。
⑦まとめたものを紹介しあう	
③評価	江戸の文化と新しい学問を作り上げた人々の思いや願いについて、考えたことを作品に適切に表現しているか、を評価する。

3. 選書用キーワード

カテゴリ	キーワード
町	江戸の町の仕事、江戸のゴミ（リサイクル）、江戸の商売・職業調べ、江戸の年中行事、隅田川、江戸前寿司
文化	芝居小屋、歌舞伎（役者・見る人）、浄瑠璃、近松門左衛門、相撲、錦絵、浮世絵、歌川広重、東洲斎写楽、喜多川歌麿、葛飾北斎、東海道五十三次、富嶽三十六景、寺社へのお参り、十返舎一九、東海道膝栗毛、落語
学問	藩校、寺子屋、蘭学、杉田玄白、前野良沢、翻訳、蘭学事始、ターヘルアナトミア、解体新書、回向院、伊能忠敬、大日本沿海輿地全図、本居宣長、国学、吉田松陰